

復興対策



日野郡のそば収穫の様子

地震発生後の応急対策が一段落した後は、生活の基盤となる住宅再建をはじめ災害からの本格的な復興対策に取り組むため、平成12年11月2日から従来の県災害対策本部に替えて「鳥取県西部地震災害復興本部」を設置した。災害復興本部の事務局として、総務部次長を室長とする災害復興推進室を併せて設置し、的確な復興対策の推進に努めた。

災害復興本部は、県西部地震でのり面が大きく崩れ、最後まで通行止めとなっていた県道菅沢日野線が平成15年12月5日に開通するなど、災害復興対策が完了したことを受け、平成16年4月1日に廃止された。

災害復興本部の設置

鳥取県西部地震災害復興本部

事務局：災害復興推進室
鳥取県行政組織規則第3条の規定に基づき設置

〔構成〕

本部長：知事

本部員：出納長、教育長、各部局長、防災監

〔業務〕

- ・土木・農林水産その他の施設の災害復旧に関すること
- ・被災住民の生活再建・生産活動の支援に関すること
- ・災害対策に関すること
- ・その他西部地震に関する復興に関すること

災害復興推進室、災害復興推進室西部事務所

〔業務〕

- ・災害復興支援対策の進行管理
- ・市町村の復興対策の把握・調整
- ・災害復興本部の事務局業務

〔体制〕

「災害復興推進室」

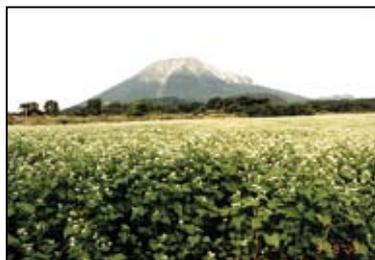
室長：総務部次長

室員：行政体制整備室職員

「災害復興推進室西部事務所」

所長：西部県民局長

所員：西部県民局県民課職員



被災地の日野郡では、農業水路が崩壊し水稲作ができなくなった水田で、そば転作に取り組むようになった。

復興本部会議の開催実績

回数	開催日	内容
第1回	平成12年11月2日	1. 鳥取県西部地震の今後の復興対策の取組みについて 2. 意見交換
第2回	平成12年11月13日	1. 国への緊急要望に対する措置状況について 2. 被災者向けパンフレットについて 3. 鳥取県西部地震関連で活用可能な事業について 4. 先週の被害状況の変化
第3回	平成12年11月27日	1. 被災者向けパンフレットについて 2. 住宅復興補助事業について 3. 被災者への激励品等の巡回展示について（プロスポーツ選手の寄せ書き、色紙） 4. 先週の被害状況の変化
第4回	平成12年12月25日	1. 震災支援策の状況等について 2. 先週の被害状況の変化
第5回	平成13年4月2日	1. 災害復旧・復興支援等の状況 2. 被害状況 3. 鳥取県西部地震関連支援対策（3月30日現在）
第6回	平成13年10月1日	1. 被害状況 2. 災害復旧・復興支援等の状況 鳥取県西部地震関連支援対策（10月1日現在） 3. 復興施策に係る問題点及び今後の課題

復興に向けた取り組み等

(1) 広報活動による復興のPR

「県政だより」による復興に向けた県民の協力を呼びかけるとともに、県政テレビなどで震災の状況や復興への取り組みの紹介を行った。そのほか、被災者支援情報を新聞広告などを活用して周知を図った。

(2) 災害記録の保存

地震の教訓を後世に伝承するとともに、今後の防災対策に活用するため、地震に関する資料を収集するなど記録保存に取り組んだ。



鳥取県西部地震災害の記録保存（包括的に取りまとめたもの）

名称	種別	発行年月	内容
鳥取県西部地震～被災から復興へ～	冊子	平成12年11月	被災状況家復興に向けた取り組みなどを写真中心に掲載（約50ページ）
平成12年 鳥取県西部地震の記録	ビデオ		被災状況家復興に向けた取り組みなどを収録（約30分）
平成12年 鳥取県西部地震の記録	冊子	平成13年10月	地震発生から1年間の取り組みを掲載（約200ページ）
平成12年鳥取県西部地震震災体験記録	冊子	平成13年10月	県民や防災関係者に行ったアンケートの結果や震災体験談を収録（約120ページ）
「平成12年鳥取県西部地震」記録集	CD-ROM	平成15年3月	各機関の記録・報告書・写真等をデータベースに取りまとめ（資料一覧は巻末別表） 県ホームページにも掲載

復興に関する広報一覧

実施時期等	タイトル等	内容
平成12年11月号	(県民向けのメッセージを折り込み)	A4版1枚
平成12年12月号	特集「鳥取県西部地震」	被災状況、県の対応状況及び復興に向けた取組等を紹介
平成13年1月号	特集「鳥取県西部地震を乗り越えて」	復興に向けた県内各地の動きを具体的に紹介
平成17年10月号	鳥取県西部地震から5年	西部地震から5年となる取り組みなどを紹介
平成12年10月16日	「週刊!とりぼーと」(山陰中央テレビ)	復興に向けた県内の動きや知事メッセージ
平成12年12月2日	「とりっ子倶楽部」(山陰放送)	復興へのあゆみを住民インタビュー等交えて紹介
平成12年12月6日	「週刊!とりぼーと」(山陰中央テレビ)	復興に向けた取組を紹介
平成12年10月18日	日本海新聞	全7段、貸付金・県税減免など
平成12年12月1日	日本海新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞	全10段、各種融資制度の案内
平成12年12月6日	日本海新聞、山陰中央新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞	全10段、住宅再建のための補助金・融資など
平成12年10月19日	日本海新聞	半5段、住宅等相談窓口のお知らせ
平成12年10月20日	山陰中央新報	
平成12年10月7日～	とりネット、文字放送	被害状況、支援情報等の情報掲載
平成12年10月18日	新聞広告	支援制度紹介
平成12年10月21日	山陰放送ラジオ「どどーんと土曜日新鮮組」	復興に向けて知事への電話インタビュー



(3) 復興イベント等の開催

地震の教訓を防災活動に生かし防災への意識を高めるとともに、復興への取り組みを紹介し復興状況を広くPRするため、周年大会などのイベントを開催した。



米子震災フォーラムのパンフレット

震災復興に関するイベントの開催実績

名称	開催日	開催場所	主な概要
米子震災フォーラム ～鳥取県西部地震の教訓を活かして～	平成12年 2月6日、7日	米子 コンベンション センター (ビッグシップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演（鳥取県知事 片山善博） ・パネルディスカッション（県知事、境港市長、西伯町長、兵庫県防災監ほか） ・分科会 <ul style="list-style-type: none"> 第1：初動体制のあり方（県防災監ほか） 第2：被災者の生活再建支援（NHK解説委員、県知事ほか） 第3：ライフラインの確保（日本水道新聞社長ほか） 第4：災害時におけるメンタルケア（県精神保健センター所長ほか） 第5：災害時におけるボランティア活動（県社会福祉協議会ボランティアセンター所長ほか） まとめ：安全で活力ある地域づくりをめざして（県知事、兵庫県防災監ほか）
「鳥取県西部地震」を考える鳥取県民大会 ～西部地震を乗り越えて～	平成13年 10月6日		<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション（県知事、西伯町長、日野町文化センター所長ほか） ・小中学生による復興への取り組み発表（溝口町立日光小学校添谷分校、日野町立日野中学校ほか） ・復興モニュメント制作発表（県立米子高等学校総合学科） ・復興宣言（日野町立根雨小学校、県知事） など
「鳥取県西部地震」を考える2周年県民大会 ～住み続けたいまちづくり～	平成14年 9月28日		<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演（神戸大学都市安全研究センター教授 室崎益輝） ・「おにっ子太鼓」演奏（溝口町立溝口小学校） ・パネルディスカッション（県知事、北海道虻田町長、日南町長、日野ボランティアネットワークほか）
鳥取県西部地震から5年フォーラム	平成17年 10月6日	日野町 文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・荒神神楽「八重垣能」（県立日野高等学校郷土芸能部） ・自主防災組織、団体等の知事表彰 ・基調講演（大阪市立大学教授 宮野道雄） ・座談会（県知事、新潟県川口町長、黒坂地区自主防災会会長、山陰放送経営企画局長ほか）

(4) 鳥取県西部地震展示交流センターの開館

地震から6年が経過し、地震当時の記憶が徐々に風化してきている中、震災の経験や教訓を振り返り、後世に語り継ぐ場として、また、最も被害の大きかった日野町の住民や災害ボランティアが集い、被災体験などを語らい、情報共有すや発信をする拠点として、地震発生から6年目となる平成18年10月6日に「鳥取県西部地震展示交流センター」(日野町山村開発センター2階)を設置した。



備えの重要性 再認識

鳥取県西部地震から6年

開催した鳥取県西部地震展示交流センターに展示された写真を見る片山知事(6日、日野町根雨)



「鳥取県西部地震展示交流センター」が6日、立てもろろ拠点になった日野町根雨の町山村開発センター内に開館し、セレモニーが行われた。県西部地震の写真や資料などを展示するとともに、研修や座談会を通して来場者が被災者と被災体験や教訓を共有できる場として活用される。

同センターは県が設置し、日野ボランティア・ネットワーク(小谷博徳代表)に運営を委託。開館セレモニーで片山知事は震災直後の様子を振り返り、「貴重な経験を教訓として残すことが

「教訓」共有できる場に

鳥取県日野町と境港市で震度6強を記録し、全壊家屋三百三十八、半壊千九百三十九など、県西部を中心に大きな被害をもたらした鳥取県西部地震(八日二〇〇〇年の発生から六年が経過した。時間の経過とともに復旧が進み、今では災害のつめ跡を見ることができなくなった。人々から地震の記憶が薄れつつある中で、震災を教訓として防災意識を高めようとして、各地で防災訓練などが行われ、あらためて災害への備えの重要性を再認識した。

展示交流センター開館

「鳥取県西部地震展示交流センター」が6日、立てもろろ拠点になった日野町根雨の町山村開発センター内に開館し、セレモニーが行われた。県西部地震の写真や資料などを展示するとともに、研修や座談会を通して来場者が被災者と被災体験や教訓を共有できる場として活用される。

会場には、震災直後の被災地の様子を写した写真や震災を伝える号外などパネル約二百枚と震災関連の書籍約二百冊があり、当時の状況を記録したビデオを見ることができ、片山知事は会場の写真に、「懐かしい」と感慨深げだった。

平成18年(2006年)10月7日 日本海新聞

開館後、展示品を見学する片山知事



激励品

この地震では、全国各地の非常に多くの方々から様々な支援や激励が寄せられた。

鳥取市在住の日本画家・山川賀寿雄氏のご尽力もあり、プロ野球などのスポーツ界等からも、50点を超えるサインや寄せ書きなどの激励品が寄せられ、県西部地域の市町村等で、平成12年12月から平成13年4月にかけて巡回展示が行われた。

(主な激励品 (在籍はいずれも平成12年当時))

- プロ野球
 - 新庄選手、坪井選手 (阪神タイガース)
 - 王監督、井口選手 (福岡ダイエーホークス)
 - 長嶋氏、田淵氏、R・バース氏 (巨人・阪神OB戦) ほか
- サッカー
 - 北澤選手、廣長選手 (ヴェルディ川崎)
 - 柳沢選手、秋田選手、中田(浩二)選手、秋田選手、相馬選手 (鹿島アントラーズ)
 - 下田選手、森保選手、藤本選手 (サンフレッチェ広島) ほか
- プロゴルフ
 - 青木功選手、尾崎将司・建夫・直道選手、中島常幸選手ほか

福岡ダイエーホークス・王監督からの激励サイン



平成19年1月に開催された激励品展 (鳥取県西部地震展示交流センター)



お礼状・感謝状

国内・国外の各方面から人的・物的支援及び義援金などの多種多様な支援に対して、知事のお礼状を送付し、謝意を表明した。

なお、物資支援の申し出を受けたが、需要がなく結果的にお断りした方も含めて幅広く送付した。

(お礼状を送付した方)

- ・義援金、電報、手紙をいただいた方
- ・民間企業等による物資支援や申し出をいただいた方
- ・その他特に多大な支援をいただいた方

お礼状の送付実績

送付時期	国の機関等	地方公共団体関係	各種団体	民間企業等	個人等	国外関係	計
平成12年12月	10	18	74	86	50	24	262
平成13年1月	2		3			4	9
平成13年2月			4	1	1		6
平成13年4月			7	2		1	10
計	12	18	88	89	51	29	287

※ 各部等が個別に送付したお礼状については含まない。
お礼状には、「県政だより（平成13年1月号）」抜粋、「被害と現状写真」等を同封した。

お礼状の一例

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、10月6日に発生しました鳥取県西部地震に際しましては、心温まるご厚情を賜り、ありがとうございます。

今回の地震は、規模がマグニチュード7.3、最大震度6強を記録するなど、阪神・淡路大震災に匹敵するものであったにも関わらず、1人の死者もなかったことが不幸中の幸いでありました。

負傷者106名、全壊家屋366棟、半壊家屋2,265棟をはじめ、道路や港湾の崩壊、工業団地の液状化などあらゆる分野に被害が及んでおり、依然としてその傷跡には大きなものがあります。

しかしながら、皆様からいただいた温かいご支援やご協力を大きな励みとして、県民が力を合わせて頑蔽っております。

去る11月23日には第一号の復興住宅が着工するなど、一歩一歩ではありますが、被災地も着実に復興を遂げております。

また、地震とは直接に関係ない風評による観光客のキャンセルなどへの影響もあり、これらの対策にも取り組んでいるところです。

今「元気いっぱい上鳥取県」をモットーに、県・市町村、さらには多くの県民が、一日も早い復興に向けて、そしてこれまでに以上に活力溢れる鳥取県をめざして懸命に頑張っています。

今後とも、温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。略儀ながら書中をもって心からお礼申し上げます。

平成12年12月
鳥取県知事 片山 善博

感謝状の一例

また、長期にわたる支援など、特に多大な支援をいただいた(社)鳥取県建築士会や自衛隊などに対し、感謝状を贈呈した。

平成十二年十月二十七日
鳥取県知事 片山善博

感謝状

建築士ボランティア
(応急危険度判定士)代表
社団法人鳥取県建築士会
会長 尾崎明 様

平成十二年鳥取県西部地震による災害に際しボランティアとして被災した住宅等の応急危険度判定に迅速に対応し被災者の安全や財産の確保に多大な貢献をされました。よってここに深く感謝の意を表します。